



「お接待」の気持ちを持って

廣田 英城 一般団法人
日本エレクトロヒートセンター 理事

私の地元の四国では、八十八ヶ所の札所（お寺のこと）を巡るお遍路さんの姿を見かけます。札所を巡ることで弘法大師の高徳を得られるとされており、約1,400kmの行程を巡ります。今でも地元に戻ると白装束に身を包み巡礼されている方を見かけます。

このお遍路さんに関連して四国地方で使われている言葉に「お接待」という言葉があります。遍路の道中に見知らぬお婆さんが「お茶でもどうぞ」と招いてくれることなどがあります。これが地域住民が遍路を歓待する慣習「お接待」です。お接待には食べ物や飲み物をくださったり、接待所と呼ばれる休憩所を開放していたりその形は様々ですが、「行けない私の分まで宜しくお参りください」という代参の意味を込めた無償の行為ということです。（日頃私たちが使っている「接待」とは少々趣旨が違います。）

昨年、2020年に東京でオリンピック・パラリンピックが開催されることが決定しました。その最終プレゼンで使われた言葉「お・も・て・な・し」が流行したことは記憶に新しいと思います。私がこのプレゼンを聞いた時、最初に頭に浮かんだ言葉が「お接待」でした。オリンピック・パラリンピックが開催されると、国内だけではなく海外からも多くの方が首都圏に集まります。なかなか無償とはいきませんが、迎える側一人一人が「お接待」の気持ちを持って迎えることが東京オリンピック・パラリンピック成功の第一歩になるのかなと思います。皆さん日々忙しいのでボランティアというわけにはいかないと思いますが、道に迷っている人や地下鉄の乗り方に迷っている人がいれば声を掛けることから「お接待」をしてはいかがでしょうか？

東京オリンピック・パラリンピックの話題になったので最後に2020年に向けた街づくりについて考えてみたいと思います。東京オリンピック・パラリンピックの誘致に成功してから、都市の再開発や交通ネットワークの拡充、セキュリティー面での整備等が新聞紙上等を賑わせています。

オリンピック・パラリンピックが開催される2020年に東京がどう変わっているかを想像するとわくわくしてきます。そのような中、電気事業に係る人間として最も重要だと思うのが全ての生産活動の源となる『電気』の安定供給です。東京都は2020年の東京の姿の一つとして『エネルギー効率が最も高く世界一環境負荷の少ない環境先進都市』を目指すとしています。最近では企業・家庭の節電意識が高まり、一定の省エネが定着してきました。又、地域におけるエネルギーの効率的なマネジメントを目的としたスマートシティについても実証試験等が行われています。今後はその実現に向けて、ヒートポンプを初めとした各機器の更なる技術進歩やエレクトロヒートシステムの普及が必要になってきますし、その促進にむけた活動がより重要になってくると思います。

2020年には東京がエネルギー有効活用の見本市になっているかもしれません。海外からいらっしゃる皆様に日本の技術に驚いてもらい、そこに少しの『お接待』を加えて、オリンピックを成功に導きましょう。